

# **公立義務教育諸学校の学級規模及び 教職員配置の適正化に関する検討会議**

**これまでの議論の整理(案) 参考資料**

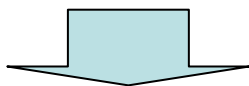


# 少人数学級の効果

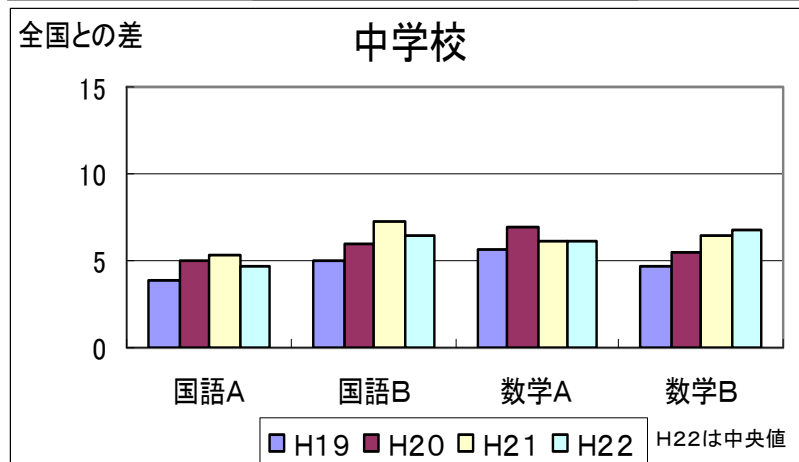
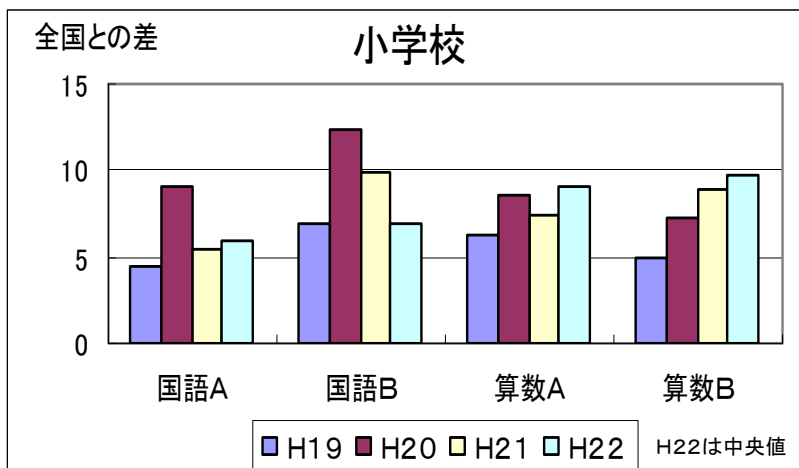
# 少人数学級の効果① ～秋田県教育委員会の取組(1)～

少人数学級を導入後、全国学力・学習状況調査の結果が向上

- ・平成13年度から小学校1・2年生で33人以上の学級をもつ学年に少人数学習のための人的配置を実施し、**30人程度学級を実施**(平成14年度から中学校1年生(34人以上)、平成23年度から小学校3年生にも拡充)
- ・小学校4年生～6年生、中学校2～3年生については、基本教科で**20人程度の少人数指導**ができるように人的配置(指導方法工夫改善定数)



## ○全国学力・学習状況調査結果から



- 全国平均との差は、小学校で5ポイント、中学校で4ポイント以上、上回る(H22)
- B問題は、全国平均を大きく上回る傾向
- 小・中学校ともに標準偏差が全国平均以下
- 無解答率は、すべての問題で全国平均以下

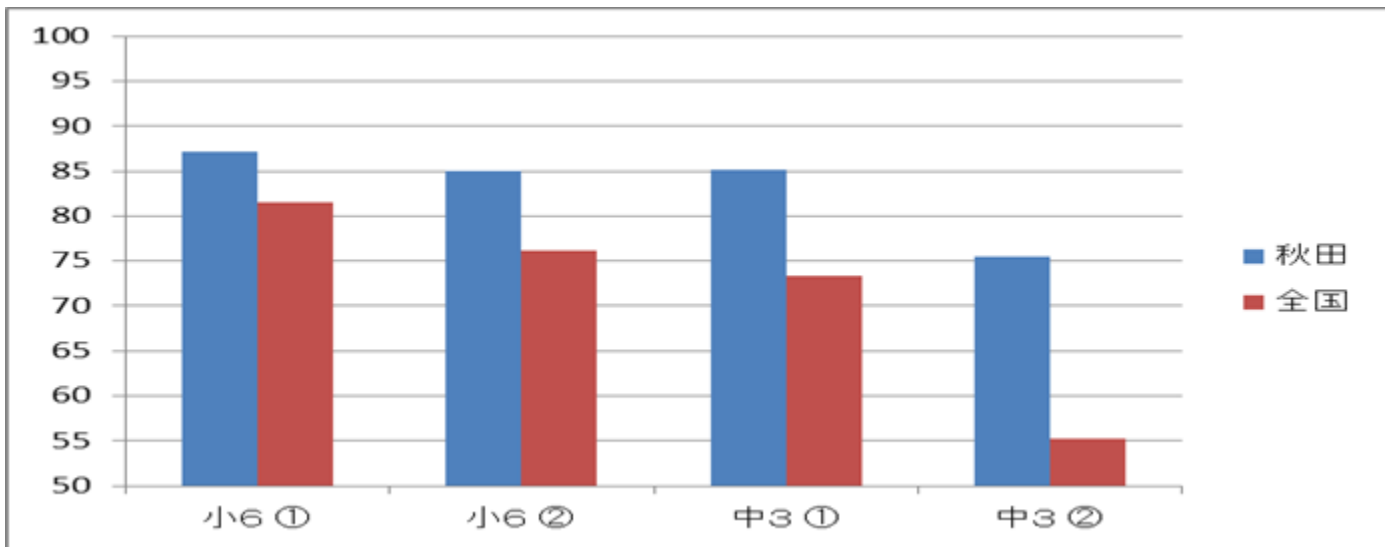
# 少人数学級の効果① ～秋田県教育委員会の取組(2)～

少人数学級を導入後、児童・生徒の学習態度・学習意欲が向上

## H22全国学力・学習状況調査より

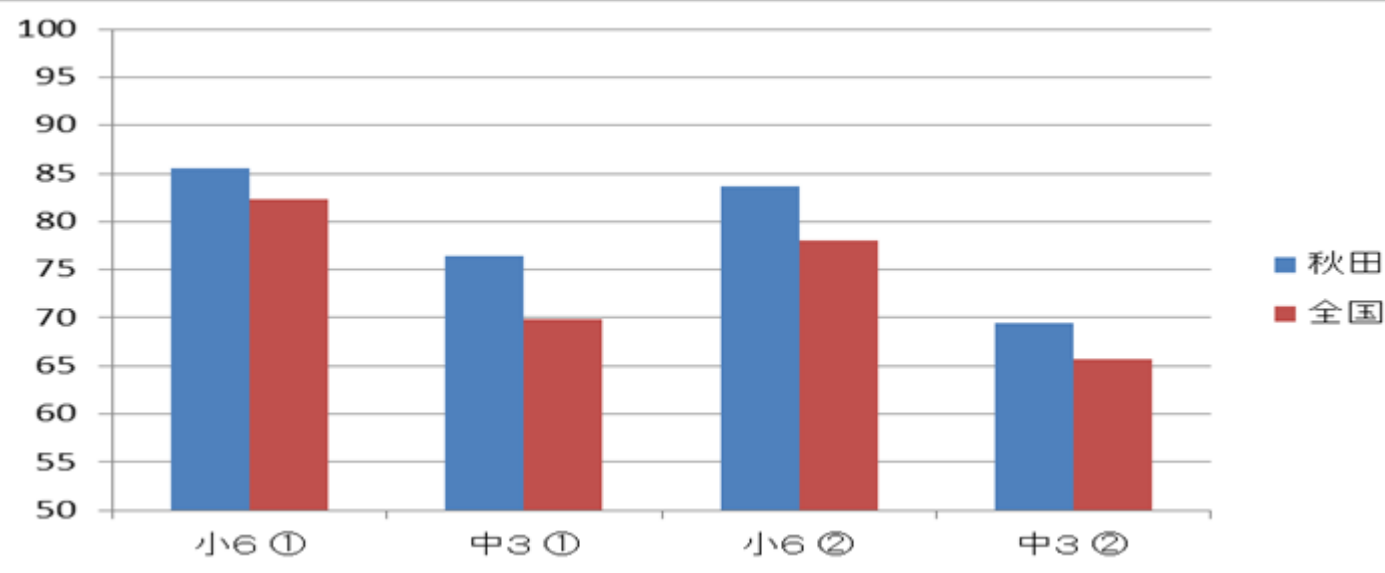
- ①自分の考えを発表する機会が与えられている
- ②学級の友達の間で話し合う活動をよく行っている

「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の合計(%)



- ①:国語の授業はよく分かりますか。
- ②:算・数の授業はよく分かりますか。

「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」の合計(%)



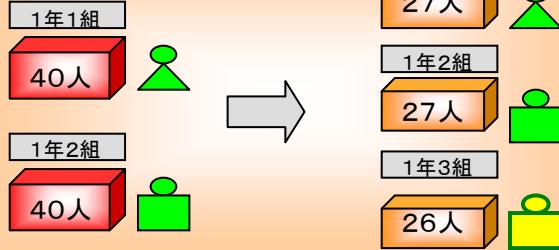
# 少人数学級の効果② ～山形県教育委員会の取組～

少人数学級を導入後、成績が向上、不登校やいじめが減少

さんさんプラン  
(H14年度～)

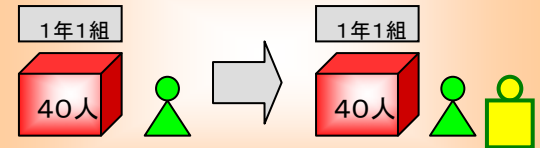
- 小学校において21人から33人の学級編制にする。
- 児童数34人以上の学級が複数ある学年に教員を配置する。
- 1学級のみのある学年については、少人数授業を行う。

【少人数学級編制】



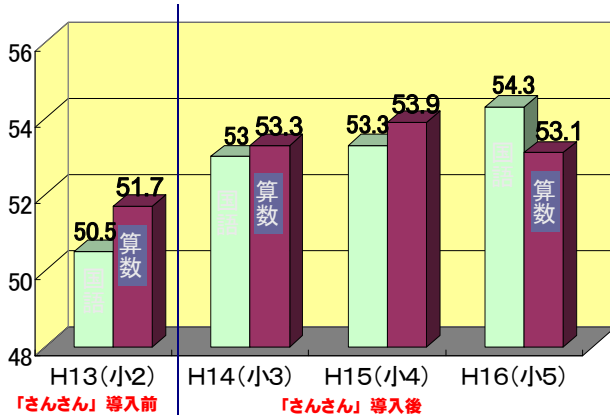
【少人数授業】

チーム・ティーチングの例

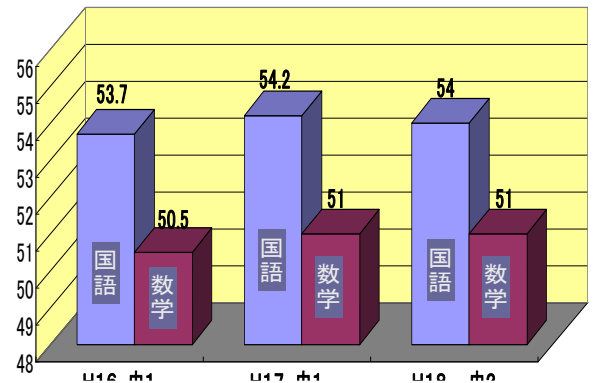


他に、小グループなど多様な学習形態が考えられる

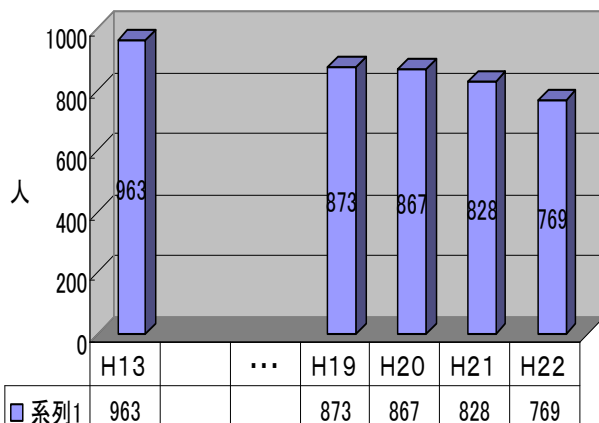
学力偏差値 **小学校の学力の変化 (導入学年追跡調査)**



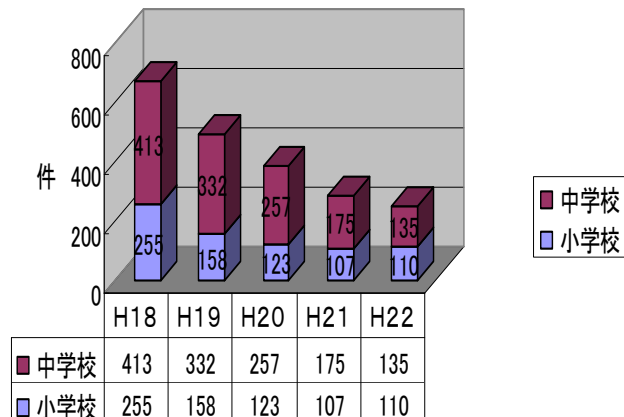
**中学校における学力の推移**



**不登校生徒数(30日以上欠席)の推移**



**いじめ件数年次推移**



「教育山形「さんさん」プランの取り組み」【山形県教育委員会】

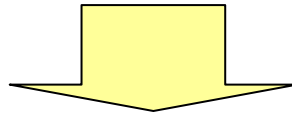
(公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会議(第2回)配付資料)

# 少人数学級の効果③ ～大阪府教育委員会の取組(1)～

## 少人数学級導入後、欠席者率が減少

### 大阪府教委の取組

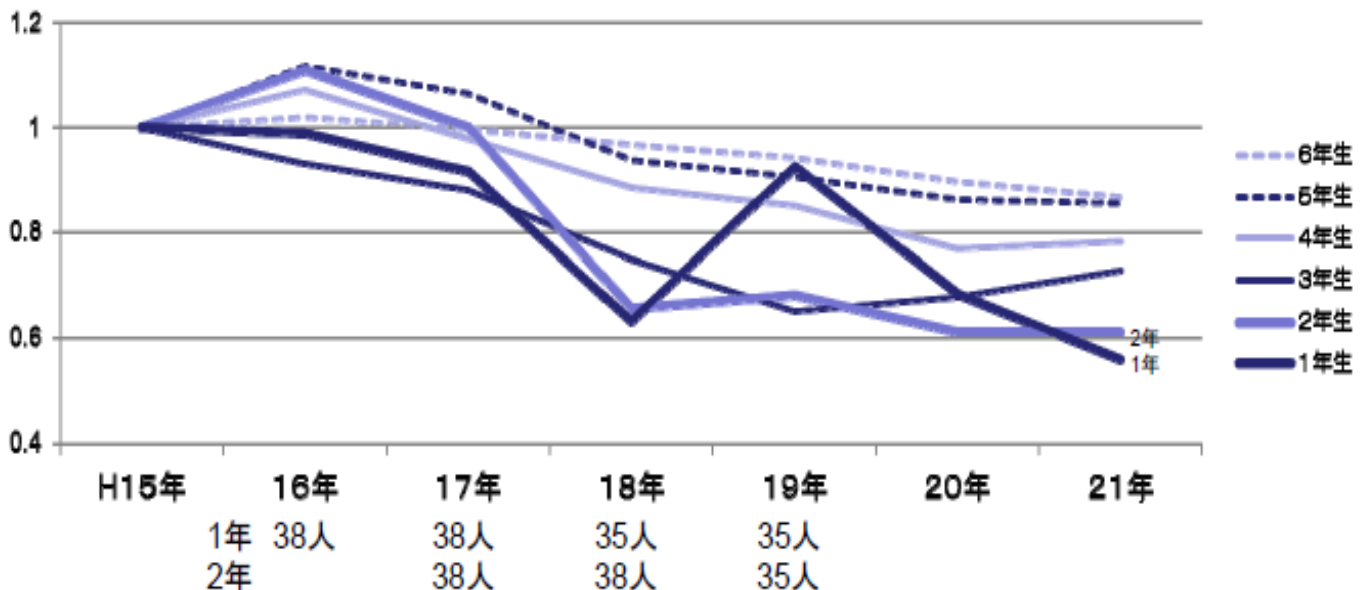
平成16年度以降、段階的に小学校1年生・2年生に少人数学級を導入



### 1学期の欠席者率の比較 (平成15年度と21年度を比べると、欠席者が延べ18,000人減少)

	1年生	2年生	合計	
H15年度	2.12%	2.05%	2.09%	1学級 40人
H19年度	1.78%	1.85%	1.81%	[算出方法] 欠席者率 = $\frac{\text{延べ欠席者} \times 100}{\text{在籍児童数} \times \text{授業日数}}$
H20年度	1.58%	1.66%	1.62%	
H21年度	1.51%	1.53%	1.52%	

### 2. 30日以上長期欠席者率の推移 (平成15年度を1とした場合)

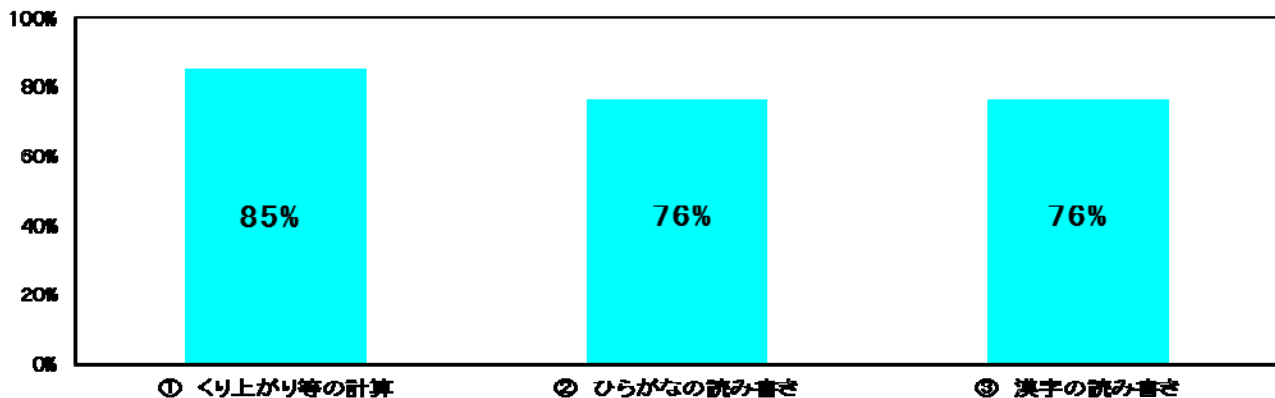


「大阪府における少人数学級編制(公立小学校)」【大阪府教育委員会】  
 (公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会議(第3回)配付資料)

# 少人数学級の効果③ ～大阪府教育委員会の取組(2)～

## 少人数学級は、計算や漢字の読み書き等の基礎学力の定着に効果

指導目標をクリアした児童が増加した学年の割合(62校)



(例) A小学校1年生の場合

	指導目標をクリアした児童数の割合	
	導入前	導入後
① くり上がり	91%	97%
② ひらがな	94%	97%
③ 漢字	80%	88%

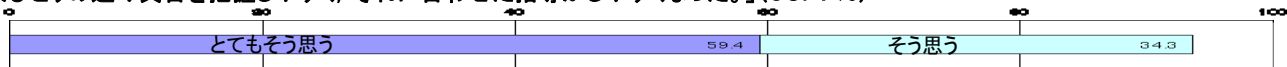
(平成20年度 大阪府少人数学級編制効果検証より)

## 少人数学級について、教員・保護者からは肯定的な評価が多い

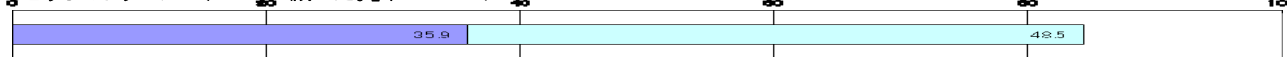
(平成22年度 大阪府少人数学級編制効果検証(対象:270校)より)

### 《教員の評価》

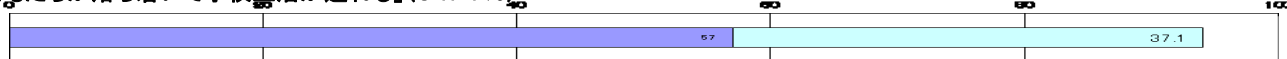
「一人ひとりの進み具合を把握しやすく、それに合わせた指導がしやすくなった。」(93.7%)



「子どもどうしのトラブル・けんかが減った。」(84.4%)



「子どもたちが落ち着いて学校生活を送れる。」(94.1%)

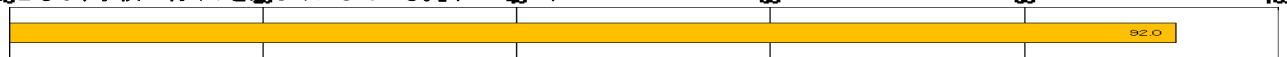


### 《保護者の評価》

「先生は、家庭連絡等きめ細かい対応をしている。」(86.0%)



「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」(92.0%)

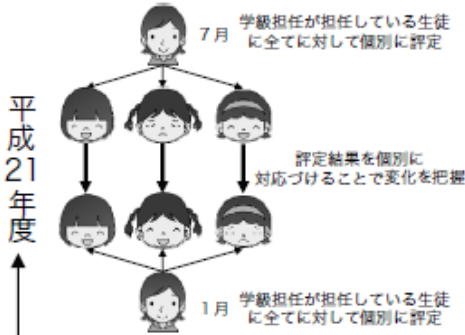




## 少人数学級を導入後、学習行動が良くなった生徒の割合が高い学校が多い

(山形県内の中学校(2年生)を対象とした調査)

### 調査の枠組み



平成21年度

平成22年度

- 平成21年度の2年生の状況と、平成22年度の状況を比較。
- 平成21年度調査の対象校(48校)であり、かつ平成21年度において義務標準法による試算上第2学年の学級数が2学級以上かつ学級あたりの生徒数が34名以上であり同法に即した学級編制を行った学校(40校)のうち、平成22年度に調査協力をいただいた学校から、回答方法に不備の見られた学校を除いた34校を対象。

校長が割合を報告

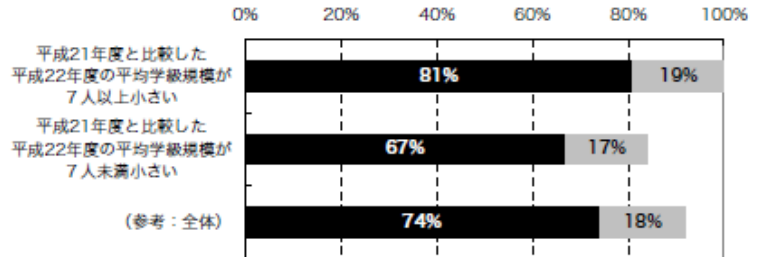


- 1学期末より2学期末の方が〇〇するようになった
- 1学期末と2学期末で変わらない
- 1学期末より2学期末の方が〇〇しなくなった

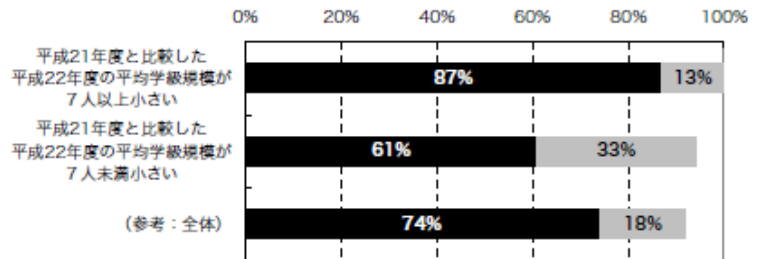
### 学習行動

### 結果

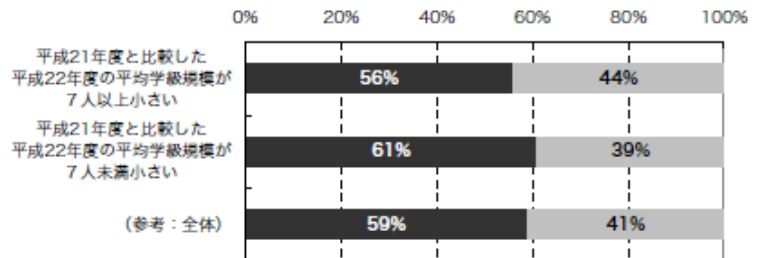
少人数学級導入後の方が「授業中集中」するようになった生徒が多いか



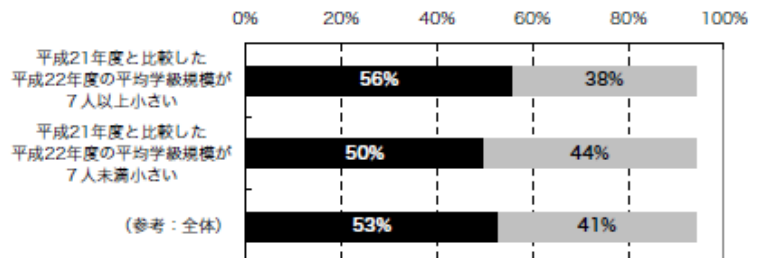
少人数学級導入後の方が「授業に積極的に参加」するようになった生徒が多いか



少人数学級導入後の方が「宿題」をするようになった生徒が多いか



少人数学級導入後の方が「宿題以外の家庭学習」をするようになった生徒が多いか  
(塾や通信教育を除く)



- 当該項目の内容について1学期末から2学期末にかけて向上した生徒の割合が、平成21年度と比較して平成22年度の方が5ポイント以上高い学校
- 当該項目の内容について1学期末から2学期末にかけて向上した生徒の割合に、年度間で差が見られない(差が5ポイント未満)学校

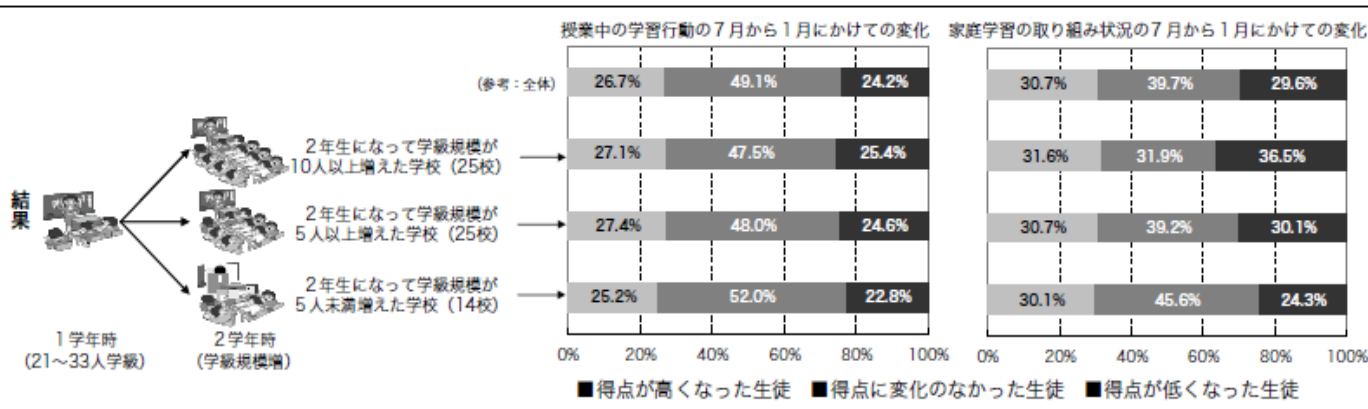
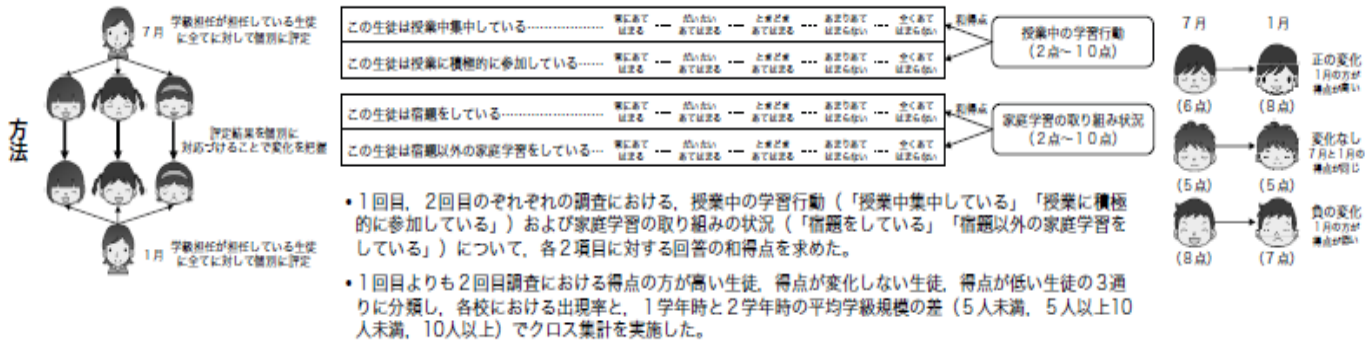
「学級規模に関する研究の動向ならびに学級規模が教師の学級づくりと生徒の変化に与える影響」  
【山森光陽氏(国立教育政策研究所初等中等教育研究部主任研究官)】  
(公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会議(第4回)配付資料)

## 進級に伴い学級規模が大きくなると、家庭学習を始めとする生徒の学習に対する取組に悪影響を及ぼす

**目的** — 第1学年時と第2学年時の学級規模の差と、第2学年1学期（第1回調査：7月）から2学期（第2回調査：12月）にかけての授業中の学習行動の変化ならびに家庭学習の取り組み状況の変化との関係を検討。

**調査対象校** — ある県における中学校のうち、平成21年度第2学年の学級数が義務標準法による試算上2学級以上、かつ学級あたりの生徒数が34名以上であった48校。

**調査対象生徒** — 平成21年度に実施した「学級規模が生徒の学習行動に与える影響」の調査において、2回分の調査データのある6752人。



**考察**

- ・1学年時での学級規模より2学年時の学級規模が大きくなるほど、家庭学習の取り組み状況が負の方向に変化する生徒が多い傾向が見られる。
- ・学級規模を途中から変化（学級規模を大きく）させることは、授業中の学習行動、家庭学習の取り組み状況の両者において、好ましくない方向に変化する生徒が増えることにつながると思われる。

# 学級編制の弾力化の取組

# 学級編制の弾力化の取組① ～京都府教育委員会の例(1)～

## ◎京都市式少人数教育について

### 30人程度学級が可能な定数配置

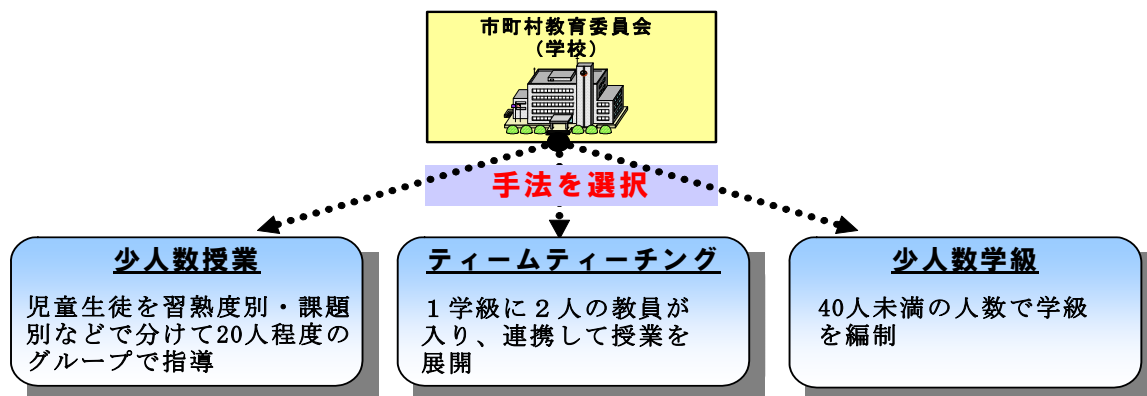


国の加配定数を活用するとともに、京都府の独自措置として定数措置を行い、小中学校において30人程度の学級編制が可能となる定数を配置

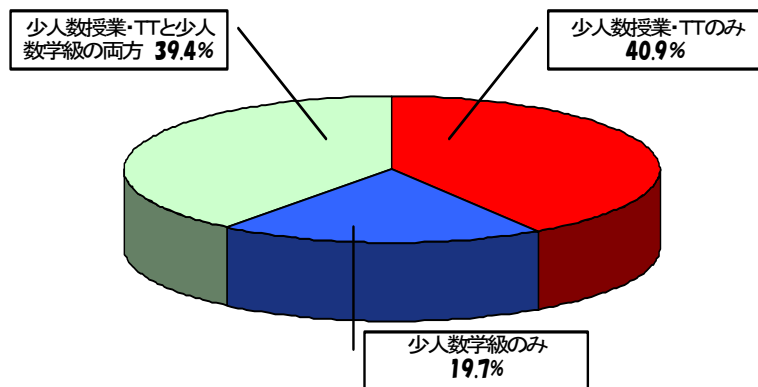
### 市町村に一括配当・市町村が自由裁量で活用、手法を選択



- ◆教員定数の配当を学校ごとから市町村ごとに変更し、市町村に一括して総定数を配当
- ◆市町村は、一括して配当された定数を市町村の自由裁量により所管する学校に配置
- ◆各市町村教育委員会（学校）は、府教委から配当された定数を活用し、学校や児童生徒の状況に応じて、少人数授業、ティームティーチング（TT）、少人数学級の3手法から選択して少人数教育を展開



手法選択した学校数の割合(平成23年度)



※少人数学級19.7%の内、約半数は少人数授業等も実施している。

○市町村教育委員会は、子どもや地域・学校の状況を踏まえ、主体的かつ弾力的な教員配置が可能

○学校の実情に応じた少人数教育の手法を選択することで、学年の特性や児童生徒の発達段階に即した指導方法・体制が整備できる。

## 少人数教育は、児童生徒の学力面・生徒指導面の双方に効果

### 《京都式ものさし》

#### 学力の経年比較に関する調査研究

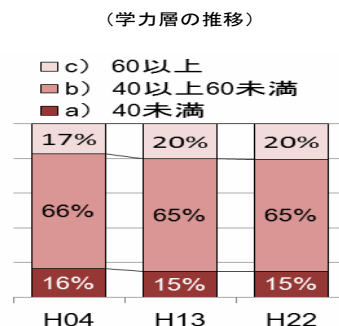
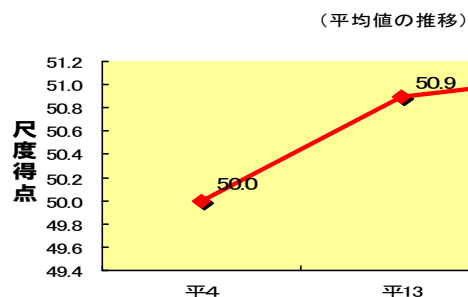
- ★京都府では、平成3年度から全小学6年を対象に府独自の学力診断テストを実施(20年間の実績)
- ★過去のテストを使用し経年比較の調査研究(平4・平13・平22の9年間隔)

#### 【経年比較の方法】

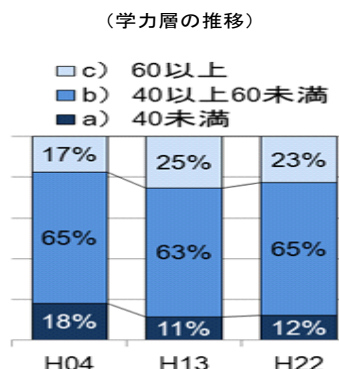
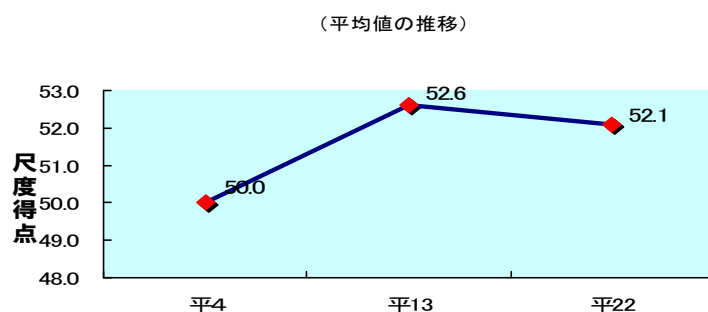
- ① 調査対象年度に実施した診断テストから抽出した問題を府内30校で実施
- ② この調査結果から3か年の尺度を共通化し(京都式ものさし)、調査対象年度の児童全員について比較可能な形で学力を推定
- ③ 平成4年度を平均50点に標準化した上で経年比較



#### ◇ 国語

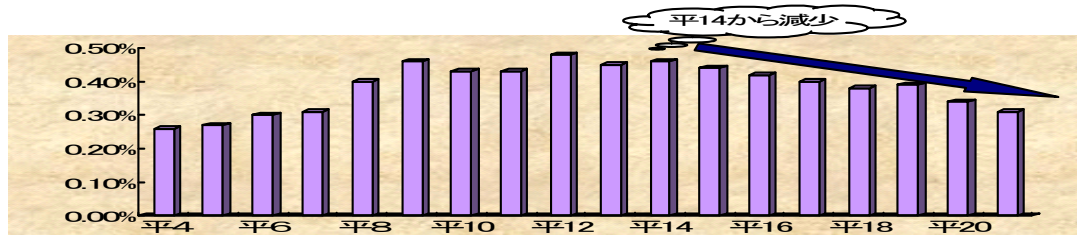


#### ◇ 算数



#### 生徒指導上の成果

#### 不登校児童の出現率



# 学級編制の弾力化の取組① ～京都府教育委員会の例(3)～

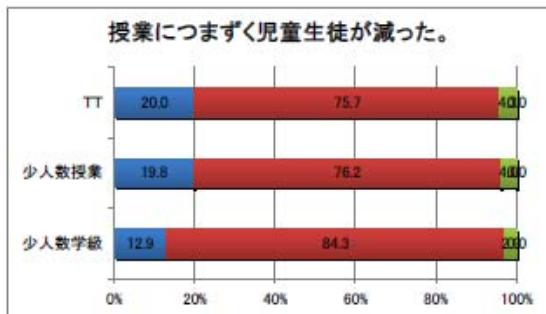
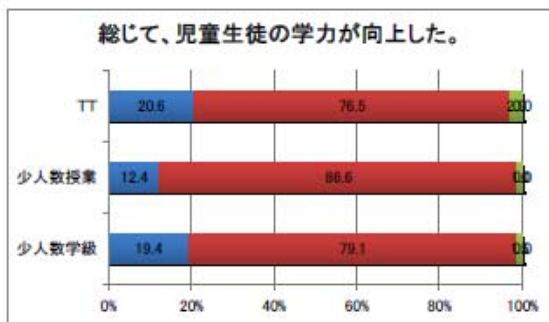
少人数教育いずれの方法も学力向上には効果的。基礎学力の定着には、ティームティーチングや少人数授業が特に効果的

## 京都式少人数教育の成果についての意見

《少人数教育推進担当教員等アンケート調査(平成23年度実施)》

■ とてもそうだ   
 ■ ややそうだ   
 ■ あまりそうでない   
 ■ まったくそうでない

### 学 力

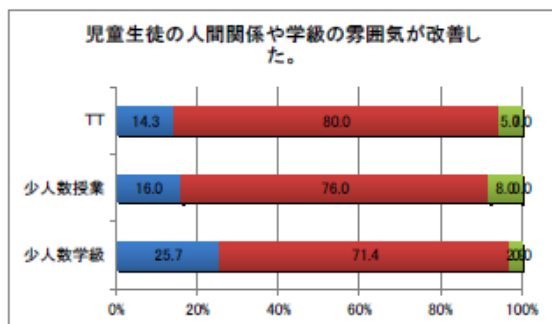
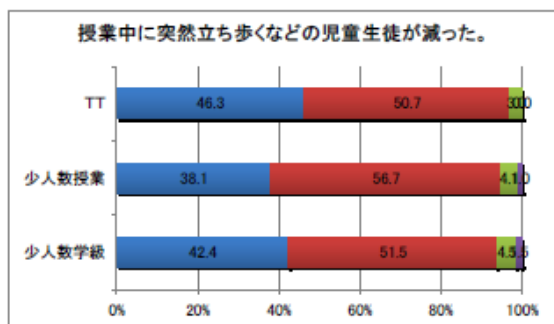


#### <ポイント>

- ◆いずれの方法も学力向上には効果的。
- ◆基礎学力の定着には、TTや少人数授業が特に効果的。

学習習慣環境の確立には少人数教育が特に効果的。学級経営上は少人数学級が特に効果的

### 生徒指導



#### <ポイント>

- ◆学習規律の確立には少人数教育の取組が特に効果的。
- ◆学級経営上は、生活集団の規模が小さい少人数学級が特に効果的。

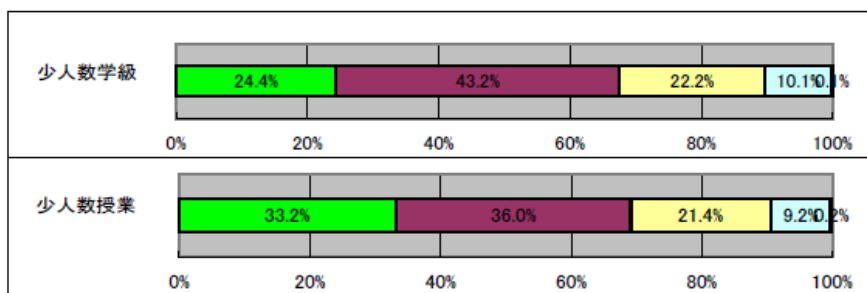
## 少人数学級、少人数授業ともに児童から高い評価

○小学校児童の意見(平成21年度実施)

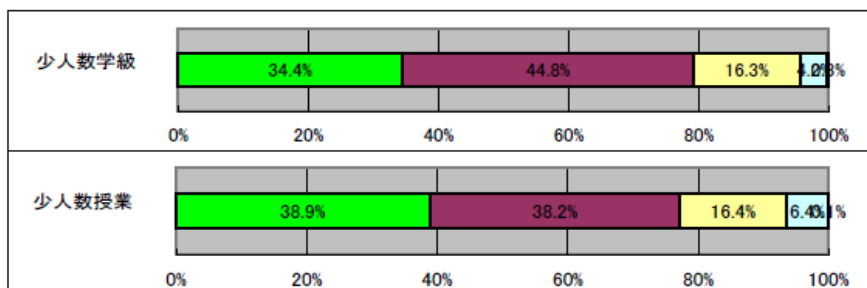
- ・どちらの方法においても、約8割の児童が「授業がよくわかる」と回答
- ・「少人数授業」の方が「授業が楽しい」、「勉強にやる気が出る」と感じている割合が高い

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまり思わない ■ そう思わない ■ 無記入

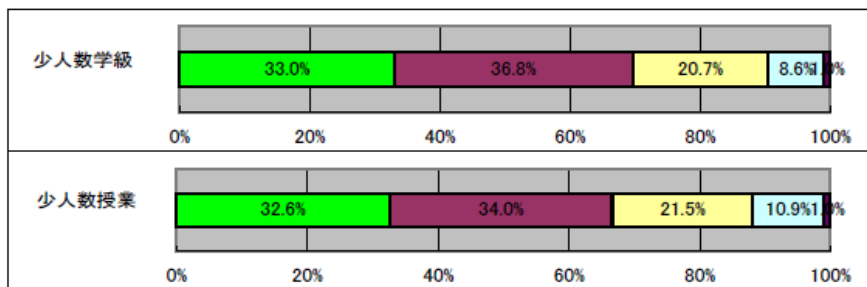
### 1. 授業が楽しい



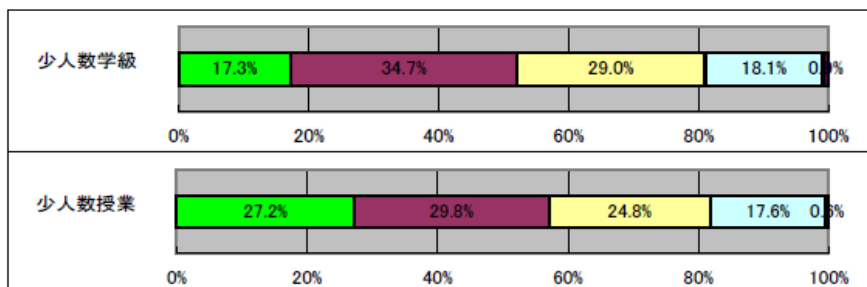
### 2. 授業がよくわかる



### 3. ていねいに教えてもらえる



### 4. 勉強にやる気が出る



## ◎兵庫県・新学習システムについて

- 小学校 1・2年生:35人学級編制・複数担任制の実施 (H23年～基礎定数)
- 小学校 3・4年生:35人学級編制・少人数学習集団の実施
- 小学校 5・6年生:少人数学習集団の実施、兵庫型教科担任制の実践研究
- 中学校 全学年:少人数学習集団によるきめ細かな指導の推進

16年度(1年生)から順次導入、20年度に小学校4年生まで35人学級導入(指導方法の工夫改善定数等を活用)

区分	全学校数 ※1	35人学級編制等の選択状況			
		対象校数 ※2 A(B+C)	35人編制を選択実施		複数担任制・少人数学習を実施 C
			校数 B	実施率 B/A	
1年生	792校	164校	163校	99.4%	1校
2年生		168校	151校	89.9%	17校
3年生		191校	169校	88.5%	22校
4年生		181校	148校	81.8%	33校

※1 兵庫県内の全小学校数

※2 学級編制基準40人と35人で配置数が増となる学校数(学年別)



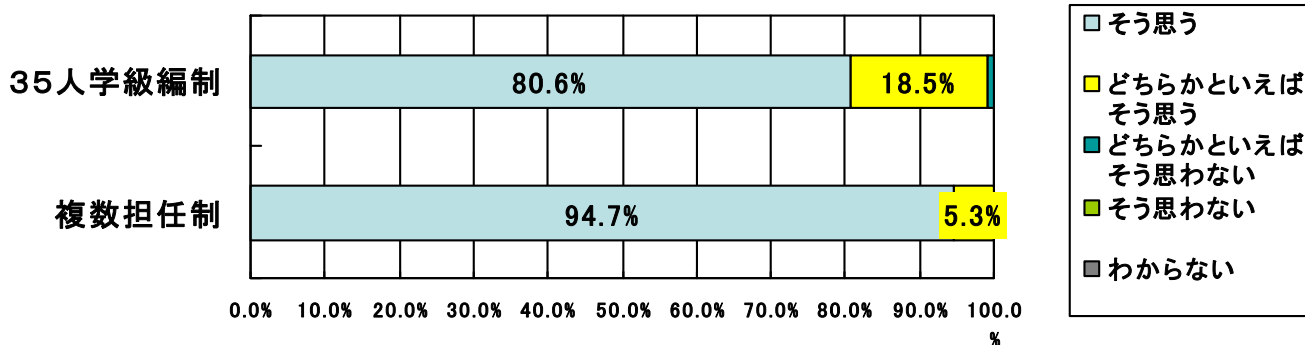
# 学級編制の弾力化の取組② ～兵庫県教育委員会の例(2)～

学習面でのつまずきのある児童への素早い対応は複数担任制が、入学当初の児童の心の安定など一人一人に応じた生活指導については少人数学級の評価が高い

## ○新学習システム実施校に対する全校アンケート結果(兵庫県実施(平成23年1月～3月))

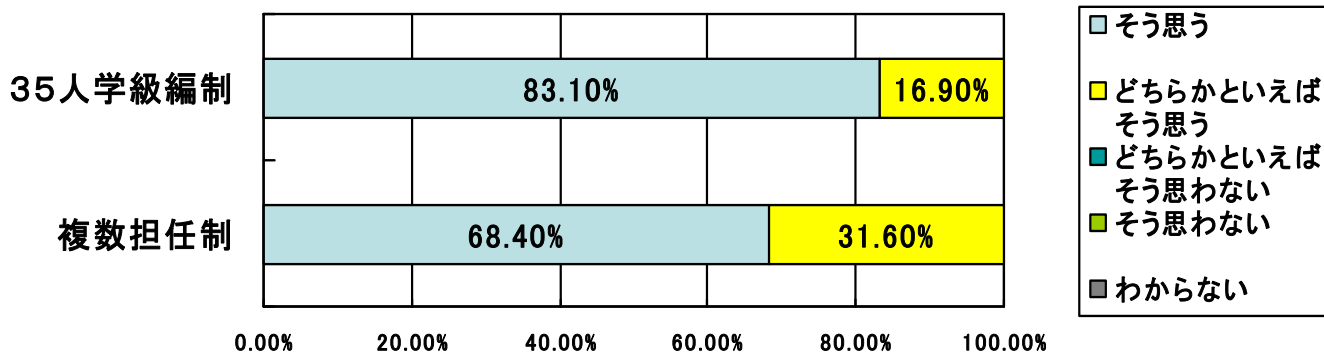
学習面でのつまずきのある児童に素早く対応ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「複数担任制」が「35人学級編制」より14.1ポイント高い

### ・「学習面でのつまずきのある児童に素早く対応ができるか」



入学当初の児童の心の安定など、一人ひとりに応じた生活指導ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「35人学級編制」が「複数担任制」より14.7ポイント高い

### ・「入学当初の児童の心の安定など、一人ひとりに応じた生活指導ができるか」

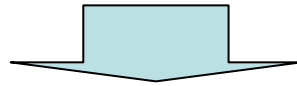


# 教科担任制の効果 ～小野市教育委員会の取組～

教科担任制、少人数授業に対して児童・保護者・教師の評価は高い

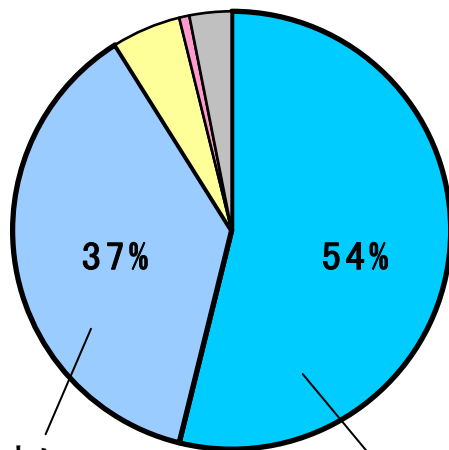
## ◎小野市における教科担任制

- ・対象学年...市内全8小学校の5・6年生
- ・実施年度...平成22年度より完全実施(兵庫県全体では平成24年度～)
- ・実施内容
  - 【教科担任制】と【少人数授業】を併用
    - ＜教科担任制＞学級担任が教科交換  
国・社・算・理から2教科以上を交換
    - ＜少人数授業＞加配教員と担任による少人数授業  
教科は算・理



教科担任制に対して、児童・保護者・教師も高評価

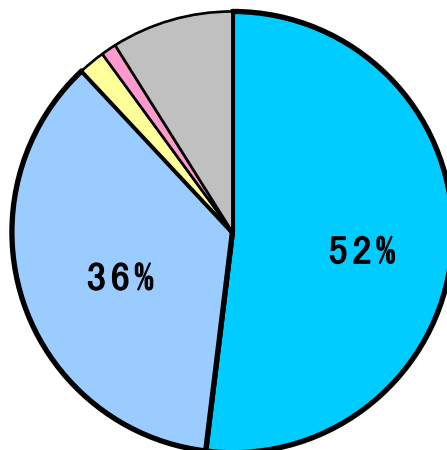
児童の評価



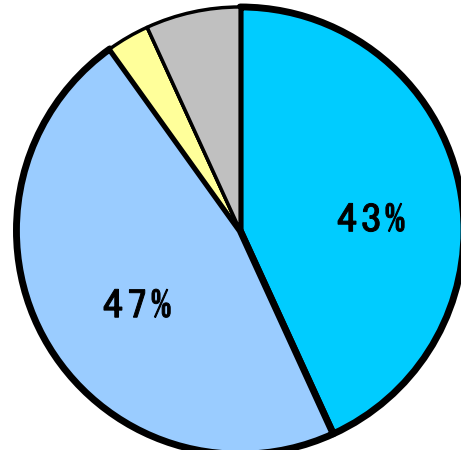
よい

とてもよい

保護者の評価



教師の評価



少人数授業に対する評価も、保護者評価で93%が肯定的評価をするなど高評価

# 加配の効果

# 小規模校への加配の効果 ～秋田教育委員会の取組～

小規模校への加配により、学習意欲の向上・学習指導の充実等が図られる

## ◎小学校まなび・ふれあい充実事業(平成21年度～)

### 1 小学校の教科担任制のねらい

- 普通学級6～7学級の小学校へ臨時講師を1名加配
- 教科担任制を生かした教育課程の編成、指導方法の工夫改善

小学校教員 { ○子ども理解のプロ→◎複数の目による子ども理解  
・教科指導のプロ→○得意教科を生かした指導

## 小規模小学校の活性化

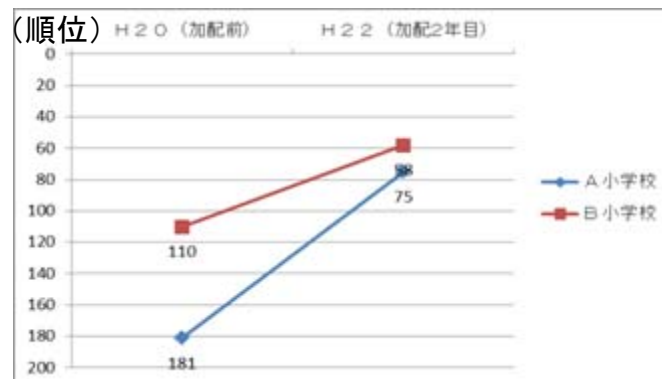
### 2 教員1名配置によるメリット

\* 加配によって生み出された時間を活用して、他の教員も得意分野を生かした教科指導を担当する

(県学習状況調査)

### 期待される効果

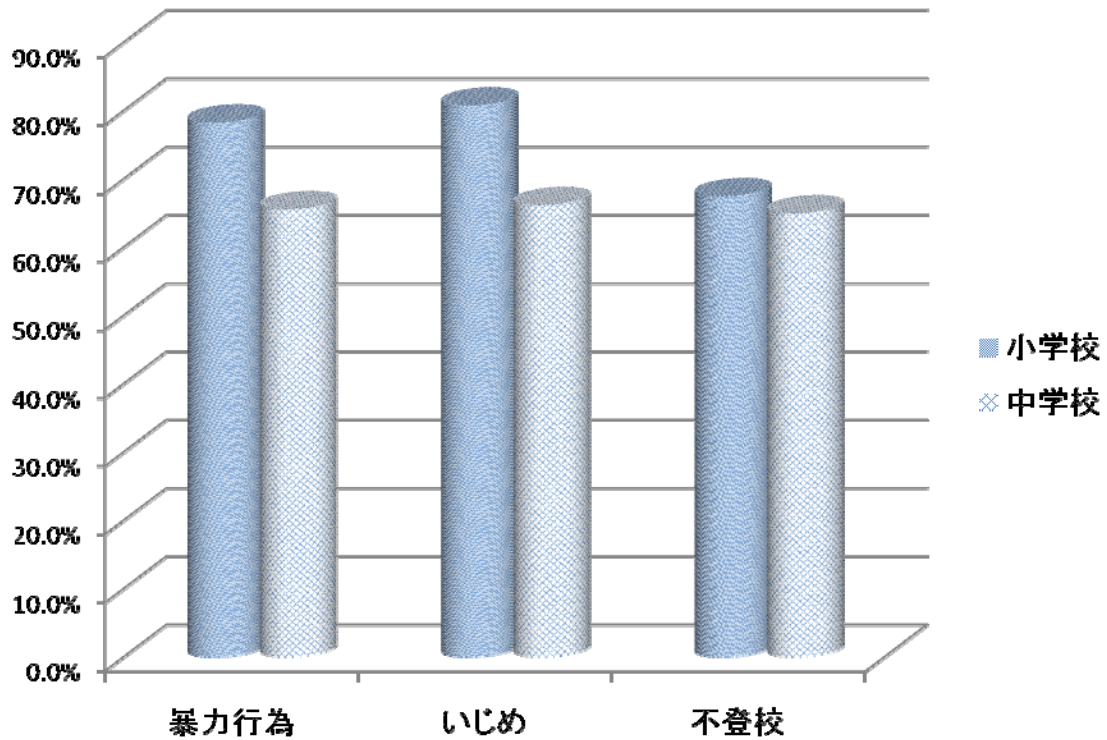
- ①学習意欲の向上と学習指導の充実  
→ 児童の興味・関心の喚起
- ②触れ合いの確保による児童理解の充実  
→ 児童や保護者の安心感や信頼感が増大
- ③教育課程の工夫による学校課題の解決
- ④小・中学校の円滑な接続



# 児童生徒支援加配の効果 ～大阪府教育委員会の取組～

児童生徒支援加配により、教員が配置された学校の多くで、問題行動が減少

問題行動等の減少した学校の割合  
(平成21年度配置校)



小学校	78.3%	80.8%	67.5%
中学校	65.6%	66.2%	65.0%

# 新学習指導要領への対応

